

Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care



NASHIM

ヒバクシャ医療国際協力会通信

Vol. 32
2012

**NASHIM設立20周年及び長崎大学原研創設50周年記念
合同シンポジウム** (原子爆弾被爆者指定医療機関等医師研究会)

長崎とヒバクシャ医療

被ばく医療学の新たな挑戦：国際貢献・そして福島

開催日時

2013年

2/9 土 10 日

9日:13:00~17:30 (開場 12:00)
10日:9:30~15:00 (開場 9:00)

会場

ベストウェスタン 長崎市宝町2-26
プレミアホテル長崎 3階

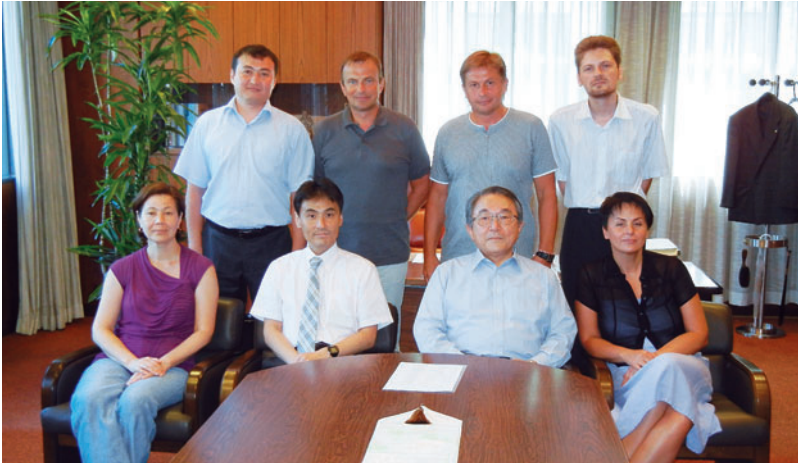
参加者募集

入場
無料

CONTENTS

- チェルノブイリ・カザフスタン関連国医師へのヒバクシャ医療研修
- 核兵器禁止平和建設国民会議が活動助成金を寄附
- 専門家派遣事業 (カザフスタン)
- 韓国医師等へ受入研修を実施
- 第9回永井隆平和記念・長崎賞受賞者決定
- NASHIM設立20周年・長崎大学原研創設50周年記念
合同シンポジウムの開催

チェルノブイリ・カザフスタン関連国医師へのヒバクシャ医療研修を実施



チェルノブイリ原発事故周辺諸国やカザフスタン共和国で放射線被ばく者の治療にあたる医療従事者に対して、指導や医療情報の提供を行うため、今年度も6名の医師等を招き、ヒバクシャ医療研修を行いました。研修者は7月18日から約1ヶ月間、長崎に滞在し、長崎大学を中心とした専門研修において、日本の最新医療を学び、ヒバクシャ医療分野の関係者との交流を深めました。

また、研修期間中には長崎原爆資料館や追悼平和祈念館の見学、平和祈念式典への参列など、長崎原爆の実相について学び、日赤長崎原爆病院、放射線影響研究所、長崎市原爆被爆者健康管理センター、恵の丘長崎原爆ホームなどへの視察訪問を通して、日本の原爆被爆者への援護ケアについて理解を深めました。

【日程概要】

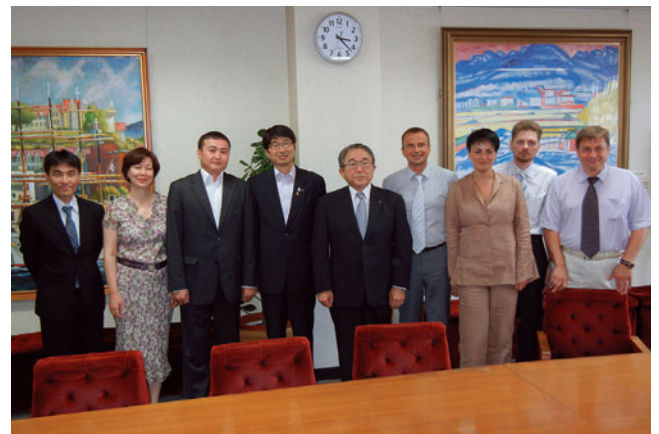
- 7 / 18 長崎到着
- 7 / 19 ~ 27 関係先訪問・見学、長崎大学での共通研修
- 7 / 30 ~ 8 / 20 長崎大学（病院）での専門研修
- 8 / 21 帰国のため長崎出発

【研修生名簿】

- | | | |
|-------------------|----------|-----------------------------|
| 1. アレクサンドル メニャイロ | (ロシア) | オブニンスク放射線医学研究所 技官 |
| 2. リュドミーラ ズルナジー | (ウクライナ) | ウクライナ医学アカデミー 内分泌代謝研究所 上級研究員 |
| 3. アルトゥール ピサレンコ | (ベラルーシ) | ミンスクがんセンター 主任 |
| 4. ドミートリル ザーノフ | (ベラルーシ) | ゴメリ医科大学 主任 |
| 5. ヴェネーラ バイスグーロヴァ | (カザフスタン) | カザフ医科大学 主任研究員 |
| 6. ケネス アキルジャーノフ | (カザフスタン) | セメイ医科大学 助教 |



中村知事を表敬訪問



田上市長を表敬訪問

研修後の感想



Alexander Menyaylo (アレクサンドル・メニャイロ)

ロシア共和国 国立オブニンスク放射線医学研究所
放射線疫学 技官

私の仕事は、がんに関するデータを統計的に解析し、それにより被ばくした方の被ばく線量と疾患との間に相関関係、法則などを発見することである。

2012年7月18日、私は日本へやってきた。空港で他の研修生たちおよび私達の通訳と合流した。この瞬間から東方の素晴らしい国での私の忘れがたい研修が始まった。

嬉しい驚きだったのは、私達に見学と学習を両立させるプログラムが用意されていたことだ。これは私の初めての外国旅行だったので、原爆資料館や、原爆を生き延びられた方たちが住まう原爆ホームを訪れたりしたことは、強い印象として残った。

私達のために、非常に興味深い講義が準備されていた。オブニンスクでの私の仕事は悪性腫瘍疾患における放射線リスクの研究なので、すべての講義が、何らかの側面をより深く理解するのに役立った。特に嬉しかったのは、原爆を生き延び、世界中に放射線障害の情報を届ける供給源となっている人びとの、特別なコホート研究をしている放射線影響研究所を訪問し、自分の目でその仕事を確認できたことである。そのうえ、なんと長崎県知事や長崎市長への表敬まで用意されていたのである！その他にも数多くのプログラムがあった。

全体として、日本へ来てから最初の一週間半は、情報の洪水の中、研修で用意されていたあらゆる出来事に強く印象づけられた。

私達のために講義を行なって下さった先生方、工藤教授、三根教授、李教授、中島教授、塚崎准教授、高村教授には深く感謝している。そして、講義や見学、訪問の関係者の皆さんにもお礼を言いたい。こちらの皆さんのおかげで、私は人間としても、学究の徒としても成長できたと思う。

7月30日からは、専門研修が始まった。私は原研リスクに配属され、ウラジーミル・サエンコ先生のもとで研修を行った。私には必要な持ち場が用意され、とても気持ちよく接してもらったおかげで、非常に楽しく仕事をすることができた。三週間の作業により、データ分析を完遂し、成果も出すことができた。私の作業を直接手伝い、私にとって新しい環境での仕事のやり方を教えてくれたサエンコ先生には、特に感謝の意を表したい。サエンコ先生との作業は、私に新しい知識を与え、統計分析という仕事において、大いに経験を積ませてくれた。

最後に、長崎の人びとの親切さによって、私は長崎が大好きになったということを申し添えておきたい。それに長崎の町は美しく、多くの名所旧跡がある。親切な日本の方々のお陰で、私はホテルでもお店でも、全く困った目にあわなかった。皆親切だった。日本の皆さん、私を招待し、新しく、有益な事柄をたくさん与えてくれて、ありがとう。もちろん私は日本について、全てを理解したわけではないし、機会があれば、この素晴らしい国にきっとまたやってきたいと思っている。



放射線影響研究所にて



Liudmyla Zurnadzhy (リュドミーラ・ズルナジー)

ウクライナ共和国 ウクライナ医学アカデミー
内分泌代謝研究所内分泌システム病理検査室上級研究員病理医

NASHIM の招聘により、私は他の研修員たちとともに、2012 年 7 月 18 日に初めて日本、そして長崎の地を踏んだ。他国からの研修員たちは、非常に気持ちのよい、人付き合いがよくて親切な人たちで、すぐに仲良くなることができた。長崎は、私達を暖かく、笑顔で迎えてくれた。また町は太陽の熱気とともに、様々な出会い、歴史的な場所など万華鏡さながらの日々を用意してくれていた。

私は長崎市長、長崎県知事、NASHIM 会長、長崎大学学長への表敬訪問を、深い敬意を込めて思い出すことになるだろう。これらの人びとは、忙しい中私達に関心を寄せてくれ、自分たちの活動について語り、私達の質問に答えてくれた。

原爆資料館、原爆死没者追悼平和祈念館からは、強い印象を受けた。巨大な水盤から、死者への追悼を表す水が流れ落ち、追悼空間ではすべての死者の名前が記されている。私が 8 月 9 日の原爆の日を忘れることは決して無いだろう。

恵の丘原爆ホームの訪問も感動的だった。この上ない善良さ、力強さ、人生で恐ろしい体験をした高齢者への愛情には、驚きがさめることはないと思う。職業意識、尊敬、高齢者への思いやり、避けられない老いと病からくる負担を和らげてあげたいという心、こういった事柄は、長崎の優れた医療機関（長崎大学病院、日本赤十字長崎原爆病院、放射線影響研究所、ハートセンター、長崎県医師会）全てにおいて感じられた。

長崎の病院については、記憶の中でも特別なページを持っている。まず医師たちとの交流について。彼らは率直に隠し事なく、自分たちの職場を誇りと愛情を持って紹介し、高い職業意識と設備、効率的なシステムによって得られた仕事の業績について語ってくれた。

塚崎准教授、三根教授、李教授、中島教授、サエンコ准教授、工藤教授らによる、歴史的、教育的、医学的題材に沿った、最新の学術研究や臨床研究に関する一連の素晴らしい講義を聴講した。

共通講義プログラムの後、私たちはそれぞれの専門の研究室や診療科に分かれて研修を受けた。私は山下教授の原研リスクに配属され、サエンコ准教授の指導のもと、「チェルノブイリ事故後における甲状腺がんの分子疫学研究」という共同プロジェクトに関する作業を行った。設備、試薬、知識、専門的な助言と支援を得られる状況など、どれを取っても作業環境は素晴らしかった。研究室は、優秀で思いやりのある人材の宝庫だった。活力、支援、観光案内、無尽蔵の知識の泉、あらゆる質問と問題の助言者を体現するタチャーナ・ログノーヴィチなくしては、私達研修員は日本についてこれほどよく知ることはできなかつただろう。彼女は、共同プロジェクトの試料の分析、蛍光免疫化学反応のプロトコール作成、マイクロフィルム撮影など、すべてを計画通り実行してくれた。また、実験室の作業では、大学院生のアンドレイ・ビチコフ（スモレンスク医科大学の病理学者）が、大いに手助けをしてくれた。彼は私に素晴らしい顕微鏡で、日本語メニュー（!）のデジタルカメラを使ってマイクロフィルムの撮り方を教えてくれ、実際に撮ってくれた。またプロトコールの仕上げに際しては、自分の膨大な知識と高度なスキルを使い、入念に、辛抱強く実験を行なってくれた。

大村の長崎医療センターでは、伊東先生、前田先生に暖かく迎えて頂き、感謝している。伊東先生とは「チェルノブイリ組織バンク」のプロジェクトを通じ、長年の親交があるが、素晴らしい方で、謙虚で、細やかで、知的な人物である。

「日本」と言う名の、おとぎ話のような贈り物に対する感謝を、とても言葉で表しきれない。ここで出会った人びと、長崎の絵画のような町、先生方は、日本にとってかけがえのない宝だと思う。全てに対してお礼を申し上げたい。



Artur Pisarenka (アルトゥール・ピサレンコ)

ベラルーシ共和国 ミンスクがんセンター
頭頸部外科 主任

最初の一週間に、各種講義、長崎県知事、長崎市長、NASHIM 会長への表敬訪問、長崎の医療機関視察が行われた。特に印象に残ったのが原爆ホーム訪問およびその居住者との交流で、この施設における高齢者の生活環境には驚かされた。これこそ目指すべき

ものだと感じた。

講義は長崎大学で、高いレベルで行われた。すべての講義で、様々な分野の最新のデータが使われていた。講義を聴講して得られた知識は、日々の実務でも応用が可能である。

表敬訪問や視察では、質問に対して余すところ無く答えてもらった。被ばくした住民(患者)の社会復帰に関して得た知識と経験は、自らの実務でも活用するつもりである。また長崎で見た、放射線の人体への影響に対する緻密なアプローチは、研究において活用していきたい。

実務での活用にとって非常に有益だったのは、長崎大学病院での医師たちとの交流および実習である。私はほとんどの時間を外科の各科で過ごした。

外来および入院における、あらゆる段階での住民への外科医療について、知識を得た。甲状腺や乳腺、大腸がんの患者に対する日本の治療方針について、詳しく知ることができた。甲状腺や大腸の多くの手術、また形成外科の手術に立ち会った。また甲状腺や大腸の腫瘍のビデオ補助下手術、顕微鏡を使った血管吻合も見ることができた。

私が病院の各科で受けた、親切で根気良い対応は、考えがたい。

私はありとあらゆる回診、診察、治療に立ち会った。特に、第二外科や手術室、外来での仕事を説明し、当該分野での日本の文献を探すのに協力してくれるなど、私のために労力と時間を割いて下さった南恵樹先生にお礼を申し上げたい。

大村の長崎医療センターでは、住民に対する医療サービスなど、センターの仕事について知ることができた。甲状腺の腫瘍の手術に立ち会い、病理検査室や臨床生化学検査室、人工透析室などを見学することができた。伊東先生には多くのことを教えていただき、とても感謝している。

日本で積み重ねられた経験は、ベラルーシで活用していきたい。



恵の丘長崎原爆ホームにて



長崎原爆病院 朝長院長の講義



Dmity Ruzanau (ドミートリイ・ルザーノフ)

ベラルーシ共和国 ゴメリ国立医科大学
結核・呼吸器科主任・テレメディシンセンター主任

最初の一週間は、講義、公衆衛生や医学教育の関係者表敬、長崎の医療機関訪問などが行われた。講義の題材は非常にレベルが高く、実務での応用が可能なものであった点を特に記しておきたい。訪問の際には、質問に対して詳細で率直な答えを得られ、「隠し事」というものは存在しなかった。日本で聞きし放射線被ばくの影響に苦しむ市民(患者)の社会復帰に関する知見は、自分の日々の仕事で活かすつもりである。また長崎で目にした放射線の人体への影響に対する緻密なアプローチは、自分の研究で活用していきたい。訪問や表敬で教えてもらった連絡先は、将来的に多方面でコンタクトをとり続けるよすがとしたい。例えば、李桃生教授からは、呼吸器系疾患の治療のために幹細胞を使う共同プロジェクトに関して事前の承諾を得られたので、2013年度に申請を行うつもりである。

私の実務にとって非常に貴重だったのは、長崎大学病院で得た経験と知識である。私はほとんどの研修期間を、呼吸器系疾患の患者が集まる第二内科で過ごした。呼吸器学、結核病学、腫瘍呼吸器学について、詳しい説明を受けた。私が第二内科やこの病院全体から受けた、以上の親切で根気良い対応は考えがたい。私はありとあらゆる外来、回診、診察、治療に立ち会い、どこへでも僚友のみなさんが呼んでくれた。僚友のみなさんが英語を話せるため、研修は非常に効果的だった。期待していた以上に私のために時間と労力を割いて下さり、友情を育んでくれた中村茂樹先生と原信太郎先生には、特に感謝している。彼らとは「結核の疫学、結核の感染コントロール、結核診断における諸問題、多剤耐性結核の治療」や、「肺がんの化学療法」、「感染症の病理診断」などといった、専門性の高い話題について日々話しあった。また気管支内超音波検査と経気管支生検のための細気管支カテーテル法を、事実上ほぼマスターした。

大村市の長崎医療センターでは、救急医療や集中医療、テレメディシンについて、非常によく知ることができた。ベラルーシでは医療航空制度が始まったばかりなので、非常に参考になった。

長崎大学の先端体育支援センターでは、呼吸器学の学生の教育、卒後教育などについて、詳しく知ることができた。その他、休日や、平日の研修後の自由時間を最大限活用し、長崎の観光名所や、日本の歴史・文化に親しんだ。九州の有名な景観や建築について知りたいと思い、雲仙や熊本にも足を伸ばした。

日本での研修は、長崎大学の皆さんの、知識や経験を分けあいたいという好意がなければ、このような実りあるものにならなかったと思う。私はたくさんの知識と、ここで得た経験を帰国後活かしたいという熱意、そして日本の皆さんへの愛情を抱えて帰国の途につくところである。

NASHIMのみなさん、ありがとう。長崎大学のみなさん、ありがとう。日本の皆さん、ありがとう。



Venera Baisugurova (ヴェネーラ・バイスグーロヴァ)

カザフスタン共和国 国立カザフ医科大学
公衆衛生学部主任研究員

初日は長崎大学学長および大学病院院長への表敬訪問。また NASHIM 会長や、長崎県知事、長崎市長ともお会いした。地方行政機関が被爆者に関するあらゆる事業を援助していること、また NASHIM の研修に理解を示してくれていることを、特に記しておきたい。

上記の表敬訪問時に、日本の保健制度や、一般住民および「ヒバクシャ」と呼ばれる方々の健康問題、また治療・予防体制について色々とお聞きすることができた。

塚崎准教授、三根教授、李教授、中島教授、サエンコ准教授、工藤教授に、非常に興味深く、実際的な講義をしていただいた。

研修中に、私は長与町で、被爆者健診（スクリーニング）のやり方を見学した。健診時に、来診者の健康状態の変化を知るためにどのような問診が行われているのか、またどのように問診票が使われているのかを知った。また血圧測定、採血、身長・体重・胴囲測定、咬合など必要な検査がどのように行われているのかも目にした。

特記事項： ● 充実した健診体制

- 実務的で、機動的なこと
- 住民が健診に行こうとする意思を持っていること
- 地方行政機関からの支援（健診には長与町健康保険課の公衆衛生医師が同席する）
- 健診を行う側の配慮
- 短時間で対象グループをほぼカバーできていること
- 単純で比較的安価な医療サービスで行われていること

長与町健康保険課課長中村宰子氏とお会いした時に、住民の健診事業、地域住民の健康状態や生活事情、健康増進のためのボランティアの活用、高齢者で病後や年金生活に入った人びとの精神的健康状態や社会復帰などについて、お聞きした。

研修中、私は日本の人口動態や保健制度、また住民の健康状態に関し、以下の機関から情報を得た。

大きく興味を惹かれたのは、長崎大学保健・医療推進センターの代表者達（山崎浩則氏、田山淳氏）のお話だった。学生の健康状態や、学生・教職員の健康診断についてお聞きした。保健・医療推進センターのスタッフが、自分たちの活動について説明してくれた。特に、センターが行なっている学生・教職員の精神的健康に関する調査、また必要に応じて行なっているカウンセリングについての話が興味深かった。

各地への移動健診用のバスの設備についても知ることができた。また、新生児の先天性および遺伝性の疾患を発見するための全体検査（日本では七つの疾患について検査が行われる）を行う検査室も見学した。

長崎大学医学部では、保健学科長松坂誠應教授、および看護学の浦田秀子教授、新川哲子准教授にお会いした。その折に看護師の養成方法、中等医療従事者の活動枠拡大に関する問題、医師との連携、看護師の高等教育などについてお話を伺った。看護師と医師の協力体制強化のために、外部の中等医療従事者養成機関が大学の下部機関になったという経緯をお聞きし、興味を惹かれた。

全体として日本での研修は、興味深く有益だった。私は公衆衛生の諸問題について、多くの新しい情報を得、予防医学の原則が現場でどのように実施されているのか、またその成果について知り、健康管理および保険制度など私が興味を持っている分野についても詳しく知ることができた。また、研修の運営についても好感をもった。その他にも長崎の名所旧跡を回り、日本人の文化と伝統についても新しく知るところが多かった。本研修の関係者および他の研修員に感謝したく、また将来の発展をお祈りする次第である。



8月9日の平和記念式典に参加



Kenes Akilzhanov (ケネス・アキルジャーノフ)

カザフスタン共和国 国立セメイ医科大学
パブロダール支部第二外科助教

初日はオリエンテーションの後、長崎大学学長および大学病院院長への表敬訪問。受講に先立ち、我々研修生は長崎原爆資料館、平和祈念館、原爆ホームを訪れた。また日本赤十字原爆病院、放射線影響研究所の視察も行なった。その他、長崎市の被爆者の健

診センターも見学した。

NASHIM 会長や、長崎県知事、長崎市長ともお会いした。地方行政機関が被爆者に関するあらゆる事業を援助していること、また NASHIM の研修に理解を示してくれていることを、特に記しておきたい。上記の表敬訪問時に、日本の保健制度や、一般住民および「ヒバクシャ」と呼ばれる方々の健康問題、また治療・予防体制について色々とお聞きすることができた。

塚崎准教授、三根教授、李教授、中島教授、サエンコ准教授、工藤教授に、非常に興味深く、実地的な講義をしていただいた。

7月31日から8月20日までの期間、私は外傷センター、整形外科、形成外科、また大村の長崎医療センターの業務を見学させてもらった。

特記事項：●充実した入院・外来診療

- 医療従事者の技量レベルの高さ
- 最新で効果的な手法を用いた、高い診断力
- 患者に対する思いやりのある暖かい態度
- 実務の他、学術研究、データ分析をし、研修医や学生向けの内容の深い講義を聞いた。

研修期間中に、私は多くの有益な情報、かけがえのない経験を得た。研修の関係者全てに感謝し、将来のご成功をお祈りしたい。日本の皆さん、暖かく迎えてくれてありがとう！

核兵器禁止平和建設国民会議が活動助成金を寄附

今年も核兵器禁止平和建設国民会議（核禁会議）に寄せられた浄財を活動助成金として、NASHIM に寄附をいただきました。核禁会議は1961年に結成され、核兵器廃絶、被爆者援護、平和建設のために積極的な活動を行っている団体ですが、活動の一環である被爆者援護運動として長年にわたりカンパ活動を実施され、多くの医療施設等へ健診車、車椅子、ベッド、医療機器等を寄附されています。NASHIM へも毎年、活動助成金を寄附していただいております。いただいた助成金は海外からのヒバクシャ医療研修生受入事業等に活用しています。

贈呈式は8月7日に長崎原爆資料館で執り行われ、NASHIM からは梶原事務局長が出席して、社会福祉法人恵の丘長崎原爆ホーム等の10団体と共に贈呈を受けました。

核禁会議のこれまでの被爆者救援活動や核兵器廃絶の取り組みに深く敬意を表しますとともに、改めて厚く感謝申し上げます。

NASHIM としましても、この活動助成金を有効に活用し、世界のヒバクシャ支援に努めてまいります。

カザフスタン専門家派遣事業

【日程概要】

- 8 / 21 長崎を出発し、福岡国際空港から出国（深夜アルマティ到着）。
- 8 / 22 Almaty State Institute of Advanced Medical Education での講義
- 8 / 23 カザフ医科大学訪問後、セメイ市へ移動。セメイ診断センター等訪問
- 8 / 24 セメイ医科大学訪問並びに講義。セメイがんセンター等訪問
- 8 / 25 核実験場跡訪問
- 8 / 26 アルマティ市へ移動
- 8 / 27 アルマティを出発し、帰国。

「カザフスタン初訪問紀行」

長崎大学 原爆後障害医療研究施設
アイソトープ診断治療学研究分野（原研放射）

工藤 崇



2012年8月21日から8月28日まで、NASHIMの専門家派遣事業として、カザフスタンを訪問いたしました。同行していただいたのは、長崎大学原研国際の高村教授、林田先生、関谷先生、および NASHIM 事務局の山下さんです。今回の訪問は従来のようなカザフスタンとの人事交流や長崎大学からの長崎賞授与に加え、私の専門である PET、および林田先生の専門である乳がんの診療についての講演が目的でした。訪問の内容を旅行記風にお知らせしたいと思います。

Day2 アルマティ

カザフスタンの初日は、ALMATY STATE INSTITUTE OF ADVANCED MEDICAL EDUCATION (ASIAME) への訪問と、レクチャーから始まりました。ASIAME では 30 人程度でしょうか、大勢の先生・学生さんがたに対して、PET の話（主に腫瘍 FDG PET）を雑駁ながらお話しさせていただきました。おそらくほとんどの方にはなじみがないと思っていた（これについては、Day4



に覆されることとなります）PET というジャンルについての話であり、興味を持っていただけるか大変に心配でしたが、皆さん非常に熱心に聞いていただき、講義の後も大勢の方からご質問をいただいたのが深く印象に残りました。カザフスタンの方々の高い意欲が感じられました。引き続いて、長崎大学原研国際の林田先生の乳がんについての講義が行われましたが、これも皆さん質問が相次ぎました。

Day3 アルマティ>セメイ

Kazakh National Medical University 訪問の後、セメイ市に移動。ちなみに今回の旅行ではセミパラチンスク核実験場への訪問が一つの大きな目的でしたが、この日セメイの旧称がセミパラチンスクであることを高村教授より教わりました（それまでセメイとセミパラチンスクが別の場所だと思っていたのは秘密です）。

Semey Diagnostic Center を訪問。画像診断医としては3テスラのMRIが稼働していたことが印象的でした。かつては日本の支援でCTが運用されていたが、現在では旧式になったことと、部品調達の問題から、運用されていないとのこと。画像診断機器は進歩のスピードが速くすぐに陳腐化してしまい、その割には維持費用が高額であることが、カザフスタンのような遠隔地での運用の大きな障壁となっていることを感じさせられました。大型機器を用いた医療支援についてのロジスティックスの重要性が認識されます。

Day4 セメイ

Semey State Medical University を訪問。PET についての講義。やはり、熱心さが印象的でした。引き続き林田先生の講義の後で、長崎賞の贈呈式が行われ、今年は2名が表彰されました。学習意欲の高さから考えて、今後も優秀な医師・医学者が育っていくのではないかと思います。

午後は、Semey Oncology Center を訪問。今回最大の驚きが待っていました。

Semey Oncology Center は現在様々な拡張工事を行っており、そのうちの目玉の一つとしてサイクロトロンとPETの設置を行っている途中でした。まだ建築途中で建物の基礎を作っている段階ですが、基礎工事の規模から見て相当に大きなPETセンターとなりそうです。聞くところによると、カザフスタン全土で合計5カ所のPETセンターが建築中で、すべてサイクロトロンを保有すること。旅行中うすうす感じていたことでしたが、カザフスタンという国家が非常に上向きの国家であり、大きな成長過程にあることを強く実感させられました。ここでは、PET装置についての技術的なアドバイスを求められました。思わぬところで、思わぬ専門内の質問を受けたため、つい嬉しくなって「ノリノリ」になってしまい、長時間話し込んでしまいました。同行の先生方にはご迷惑をおかけしたことを陳謝いたします。



Day5 セメイ



この日は体調を崩してしまいましたが、核実験場訪問を強行。同行の皆さんには迷惑をおかけしてしまいました。セメイからクルチャコフ市に2時間かけて移動の後、さらに曇り空の下、広大なステップ地帯を2時間程度かけて核実験場の中心部に移動。広大なステップの光景が広がり、ぱっと見ただけでは、ここが核実験の中心地であるとは気がつかないでしょう。しかし、ポケット線量計は $3 \mu\text{Sv/hr}$ 程度を指しています。強いところでは $20 \sim 30 \mu\text{Sv/hr}$ のところもあるとのこと

です。核実験終了から4半世紀経過しているにもかかわらず、爪痕の大きさが感じられます。しかし、一方で、ステップの広大な風景は、逆に、自然の回復力の強大さ、人間の行為の矮小さも感じさせます。体調を崩した中ではありましたが、貴重な経験で、無理を押しして良かったと思っています。

Day6 セメイ>アルマトイ

セメイ中央公園の見学。数日後に国際会議があるとのことで、準備中。巨大なキノコ雲のモニュメントが印象的でした。昼食の後、帰国に向けてアルマトイ市に移動。

驚いたことに、同時期に長崎大学第二外科の江口教授も医療支援でカザフスタンを訪問中で合流。長崎とカザフスタンのつながりの深さを実感しました。

Day7 アルマトイ>日本

早朝の飛行機で日本に帰国。

7日と短い(?)訪問で、体調を崩すなどいろいろありましたが、カザフスタンとの今後の友好関係の重要性が実感でき、またPETを専門としている私のような物でも役に立てる領域があることを知ることができ、大変有意義な訪問でした。このような機会を与えていただいた、NASHIMとカザフスタンの関係機関各位に感謝いたします。



韓国医師等への 被爆者医療研修を実施



長崎大学中島先生の講義

【日程概要】

- 9 / 9 長崎到着
- 9 / 10 ~ 13 関係先訪問・見学、
長崎大学（病院）での研修
- 9 / 14 帰国のため長崎出発

研修後の感想



金 泰炯（キム・テヒョン）
ソウル赤十字病院 内科 医師

ここに来る前は原子爆弾や放射線の被害に対して興味もなかったし、知識も全くありませんでした。私だけではなく、韓国人はほとんどがそうだと思います。

今回、ナシムの受入研修に参加して、原爆資料館と長崎原爆ホームでは原子爆弾の恐ろしさと放射線被害について生々しく感じました。その後、先生方の講義を受けて放射線被害について理解することができました。

福島原発事故以来、韓国でも放射能に対する関心が高まっていますが、それに対する知識や処置などについてはあまり知られていません。こういう状況の中で今回の研修に参加でき、様々な知識を得ることができて嬉しいです。

韓国にも原子力発電所がたくさんあるので、放射線被害が起きる可能性はあります。韓国に帰りましたら原爆被害者の診療だけではなく、あってはいけないことですが、万が一の事態に備えてこれからも続けて勉強していきたいと思います。

最後に日本滞在中、親切にしてくださったナシム関係者の方々、長崎県庁の皆様、講義をしてくださった先生方、皆様のご多幸を祈ります。

韓国在住の被爆者への医療充実のため、被爆者の医療や援護に携わる3名の医師を招いて、受入研修を実施しました。

9月9日から9月14日まで長崎に滞在し、長崎原爆病院をはじめとする医療機関や長崎大学などの研究機関等で被爆者医療に関する知識の習得や情報交換を行うとともに、原爆資料館などを訪れ被爆の実相について学びました。



蔭本ナシム会長を表敬訪問



長崎市健康管理センターにて



宋 時淵 (ソン・シヨン)

嶺南大学病院 耳鼻咽喉科 教授

9月10日から4日間、長崎大学病院をはじめ、原爆被爆者治療および関係機関などを訪問し、現場で勤めていらっしゃるたくさんの方々に触れ合う機会をいただきました。

原爆資料館と追悼記念館の訪問は今まで漠然と理解していた原爆の弊害について具体的に理解できる機会になりました。また、今回の研修を通じてナシムを含むいろんな団体が日本国内外の多くの被爆者のために、どれほど多くの事業を取り組んできたかと、どれほどたくさんの方々の努力を注いでいるかが分かりました。

多様な講義を聞いて、原爆被爆だけではなく、チェルノブイリの原発事故のような放射能流出事故を経験して、今まで多くの研究が進んできたことがわかりました。こういう研究結果を基に、2011年の東日本大震災により発生した福島原発事故の時は、長崎の研究者たちが蓄積された知識を持って積極的な対処をすることができたかと思うと、研修を受ける前に持っていた「この研修が本当に役に立つのか」という疑問が今は完全になくなりました。

今、4日間の貴重な研修を終えて帰国を準備していますが、韓国に帰ったら、今まで被爆患者を一般の患者と同様に接して診察してきた姿勢を捨てて、もっと細心に、誠意をつくして診察していきたいと思います。

最後に、暖かく迎えてくださった長崎県庁職員の方々や関係者の皆様、研修のチャンスを作ってくくださったナシムの蒔本 恭会長、そして講義をしてくださった先生の方々にここを借りてお礼を申し上げます。

ありがとうございました。



高 志豪 (コ・ジホ)

釜山医療院 放射線科 専門医

まず、ナシム研修がうまく行われるように支えてくださった関係者の皆様とナシム会長へ感謝のお礼を申し上げます。

私は映像医学科専門医（放射線科医師）なので「放射線」という言葉は常に触れていて聞き慣れています。今回の研修を通じて、原爆がどれほど人類に大きい悪影響を与えるのかが分かりました。

長崎大学の先生たちと長崎原爆病院の病院長の情熱的な講義に感謝いたします。

また、放射線影響研究所、長崎原爆ホーム、原爆資料館、原爆被爆者健康管理センターなど訪問先では暖かく迎えてくれましてありがとうございます。

国立長崎原爆追悼祈念館では厳粛なる雰囲気の中で、原爆の傷みを分かち合うきっかけになりました。特に原爆で亡くなられた方々のために6カ所に水が流れる場所を設けたことや、天井を透明にして空を通じて外部世界と共存できるように設計したことを聞いて、平和と愛についてもう一度考えて見ます。

いつも発展し続けるナシムになりますようにお祈りします。



長崎大学のホールボディーカウンター

第9回永井隆平和記念・長崎賞の 受賞者決定

NASHIMでは、被爆50周年にあたる平成7年に、被爆者の救護に尽力した故永井隆博士の精神を引き継ぐことを目的に「永井隆平和記念・長崎賞」を創設し、以降、隔年でヒバクシャ医療の向上・発展とヒバクシャの福祉の向上に貢献した個人や団体を顕彰しています。第9回目となる今回は、ウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所所長のミコラ・トロンコ博士を本賞受賞者に決定しました。

トロンコ博士は、チェルノブイリ事故が発生する一か月前の1986年3月にウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所所長に就任。以降、一貫してチェルノブイリ事故による住民の甲状腺への影響に関する調査、検診事業に携わり、1995年にはウクライナにおいて小児甲状腺がんが増加していることをNature誌に報告し、世界的な注目を受けられました。

さらには国際共同研究を推進することによってチェルノブイリ事故によって激増した甲状腺がんにおいて、Ret遺伝子の再配列という遺伝子異常が高頻度にみられることを世界に先駆けて報告するなど、放射線誘発性甲状腺がんの疫学、分子生物学的研究をリードしてこられました。

また、種々の国際プロジェクトにも長年積極的に参画され、WHO（世界保健機関）の国際チェルノブイリ甲状腺組織バンクプロジェクトにおいても、ウクライナの代表機関として放射線誘発甲状腺がんの摘出標本の管理にあたっておられます。

長崎大学との共同研究も長年にわたって推進されており、1991年11月に外務省主導のチェルノブイリ専門家会議で長崎を訪問して以来、放射線誘発甲状腺がんについての共同研究推進に携わり、2003年には両機関の間で学術交流協定を締結して、さらなる共同研究、人事交流の推進にあたられています。

授賞式は、来年2月9日（土）に、ベストウェスタンプレミアホテル長崎（長崎市宝町）で開催するナシム設立20周年及び長崎大学原研創設50周年記念合同シンポジウム実施に際して併せて行います。



受賞者に決定したミコラ・トロンコ博士



参加者募集

ナシム設立20周年及び長崎大学原研創設50周年記念 合同シンポジウムの開催について

入場
無料

日時

平成25年 2月 9日(土) 13:00
～2月10日(日) 15:00

場所

ベストウエスタンプレミアホテル長崎 3階

テーマ

長崎とヒバクシャ医療
～ 被ばく医療学の新たな挑戦：国際貢献・そして福島 ～

平成 24 年度は長崎ヒバクシャ医療国際協力会（ナシム）設立 20 周年及び長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
附属原爆後障害医療研究施設（原研）創設 50 周年の節目の年に当たります。

ナシム及び原研がこれまで蓄積してきたヒバクシャ医療の実績と、放射線障害に関する調査研究の成果を広く世
界に発信するとともに、福島原発事故被災地への貢献を目指すため、シンポジウムを開催します。

なお、第 1 日目（2 月 9 日）に、「第 9 回永井隆平和記念・長崎賞」の授賞式を併せて開催します。

参加者募集

〈一般の方〉

第 1 日目（2 月 9 日（土））のみ参加できます。

NASHIM ホームページの専用フォーム又は FAX によりお申し込みください。

〈医療関係の方〉

両日とも参加できます。

NASHIM ホームページの専用フォームによりお申し込みください。

ナシム

検索



NASHIM設立20周年及び長崎大学原研創設50周年記念
合同シンポジウム (原子爆弾被爆者指定医療機関等医師研究会)

参加者募集

ただし、会場の都合上定員となりましたら、
締切とさせていただきます。

入場
無料

長崎とヒバクシャ医療

被ばく医療学の新たな挑戦：国際貢献・そして福島

第1日目 2月9日(土)

13:00~13:20 開会挨拶

13:20~13:30 NASHIMと原研の沿革紹介

13:30~14:10 来賓挨拶

14:10~14:55 第9回永井隆平和記念・長崎賞授賞式
賞状等贈呈式
受賞者挨拶

15:10~17:30 シンポジウム

<記念講演>

「科学技術文明の光と影：
原研とNASHIMの世界展望」

福島県立医科大学 副学長
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授
山下 俊一

「原研における原爆後障害研究の
評価と今後の課題」

日本赤十字社長崎原爆病院 院長
長崎大学名誉教授 朝長万左男

<特別講演>

「長崎を世界に」

長崎大学名誉教授
(公財)放射線影響研究所 元理事長
長瀧 重信

17:30 閉会挨拶

第2日目 2月10日(日)

9:30~ 9:40 開会挨拶

9:40~10:20 講演「原子爆弾被害者援護行政について」

講師：厚生労働省健康局総務課
原子爆弾被害者援護対策室 室長補佐
有賀 玲子

10:20~11:00 セミナーⅠ
「HICAREの活動及び被爆者健康管理について」

講師：(公財)広島原爆障害対策協議会
健康管理・増進センター 所長
佐々木英夫

11:00~11:10 休憩

11:10~12:00 セミナーⅡ
「長崎・ヒバクシャ医療国際協力会(NASHIM):
これまでとこれから」

講師：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授
高村 昇

12:00~13:00 休憩

13:00~13:50 セミナーⅢ
「放射線と甲状腺癌：最近の知見」

講師：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
原爆後障害医療研究施設長
永山 雄二

13:50~14:50 セミナーⅣ
「放射線被曝の影響」

講師：(公財)放射線影響研究所 臨床研究部長
赤星 正純

14:50 閉会挨拶

日本医師会生涯教育講座の対象 (単位数 第1日目：4.5 第2日目：4.5)

募集
要項

- ◎一般の方 2月9日のみ一般公開でのシンポジウムとして参加者を募集します。参加を希望される方は、下記のFAX参加申込書またはNASHIMホームページの専用フォームにてお申込ください。
- ◎医療関係者の方 2月9・10日の両日も参加者を募集します。参加を希望される方は、ナシムホームページの専用フォームにてお申込ください。

ナシムホームページ専用申込フォームのURL <http://www.nashim.org/jp/symposium/2012/>

ナシム

検索

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care (NASHIM)

事務局へのFAX参加申込書 (一般の方のみ) FAX (095) 895-2578

フリガナ		ご職業・勤務先等	
お名前		電話番号	()
ご住所	〒		—

※ご記載の個人情報は、申込内容の確認などでのみ利用します。※入場券等は発行いたしません。当日受付でお名前をお尋ねします。